

視察報告

中国誘客プロモーションに参加して

産業建設常任委員長 南雲 正



このたび、観光説明会等で訪れた南京市、上海市、杭州市の街並みには20階を超える高層ビル、マンションが林立し、建設工事中の建

物が軒を連ね急激な経済成長を続けていることが確認された。13億4000万人といわれる膨大な人口がいて、広大な土地がある。富豪層も生まれ、資材も豊富だが技術の源を日本に求めている現状から、日本の産業にとつては大市場であることに

は疑いの余地はない。

しかしながら、大都市の道路には高級車と古い自転車やリヤカーが並走し、交通モラルすら感じられない現状を見た時、富豪層（2億3000万円以上）32万人、富裕層（325万円以上）1820万人、ニューリッチ層（520万円以上）4億3000万人、低所得者層（52万円以下）8億5000万人の格差社会の現状が見える。

富豪、富裕層約2100万人は別として、一般国民は観光とは程遠い存在であり、成熟しきれていない経済社会が見えてくる。

富豪層の求める観光ニーズは厳しく受け入れの対応が難しい。いま日本を訪れる買い物を中心とする、中国人観光客は富裕層が主体であると思われる。

プリンスホテルが吉林市にスキー場を中心とするリゾート開発を中国の不動産大手の万科企業グループが進め、2013年12月オープンというニュースもあるが、これは富豪層をターゲットにしたものと思われる。まだまだ

湯沢の売りであるスキー観光に対する中国人の意識は希薄であり、今後継続してプロモーションを続けなければ成果は表れないのではないかと思われる。

上海で会った、ある日本企業の幹部は中国人には当初何回も騙され、裏切られたが、継続して付き合い信頼を得られれば絶

対的な仲間になれるという情報をもらった。交流会の御礼挨拶で私自身は、ノーベル文学賞作家川端康成先生の小説「雪国」の舞台である、美しい雪国の世界を皆様にお見せできるように、町の宝として、私たちの誇りとして守り続けていますとアピールしてきた。

現在湯沢を訪れる外国人観光客は54%が台湾、香港であり、これは20年近くにわたり台湾、香港をターゲットに誘客プロモーションを継続してきた成果である。



中国だけを対象にした誘客プロモーションを続けると、長年の努力によって獲得した台湾、香港の人達を逃がしてしまうことが懸念される。

今後は中国人誘客活動に並行して、在日外国人をはじめとして韓国、台湾、香港などの東アジア諸国と、欧米からも個人観光客をターゲットにした海外プロモーションに取り組み必要性を提言し、中国誘客プロモーションの参加報告としたい。